

## 活動報告

## 第7回北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話

ERINA 調査研究部主任研究員  
三村光弘

2022年6月23日～24日、モンゴル・ウランバートル市の外務省庁舎で、第7回北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話が開かれた。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で過去2年間は延期され、3年ぶりに開かれた今回の

ウランバートル対話は、第1セッション「地域の安全保障上の問題と機会」、第2セッション「北東アジアにおける多国間協力」、第3セッション「北東アジアの平和の実現のために」、第4セッション「ポストコロナの地域経済協力」、第5セッション「北東アジアのエネルギー連携のための電力網接続」および各国政府代表団によるクローズドセッションで構成されていた。

筆者は開会式に続いて開かれた第1セッションで発言したが、このセッションにはモンゴルの他、カナダ、中国（オンライン参加）、オーストリア（オンライン参加）、韓国、ロシアからの代表が参加した。北朝鮮や米国からの参加はなかった。

会場は外務省で一番大きな国際会議場だった。ほぼ定員一杯の超満員で、マスクを着けた参加者は全体の10分の1にも満たなかった。モンゴル国内の参加者もそうだが、欧米からの参加者も「マスクは遠慮願いたい」という雰囲気であった。

会議終了後には、チンギスハン広場にある政府宮殿で、会議参加者とモンゴル国大統領とのフォトセッションがあった。モンゴルが北東アジアの一員として、地域の問題解決に貢献したいという気持ちが伝わってくる行事であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着き、地域の人流が回復するにはもう少し時間がかかるかもしれないが、北東アジアで唯一の非核地帯を宣言し、核兵器にも核の傘にも依存しないモンゴルが、地域の平和と繁栄のために力を尽くすこの会議が、米国や北朝鮮も含めた幅広い参加者を得て、さらに発展することを願わずにはいられなかった。

写真1 バトツェツェグ外務大臣の挨拶風景



(出所) 筆者撮影

写真2 モンゴル国大統領とのフォトセッション



(出所) モンゴル国大統領府より参加者に配られたもの